

神に賞賛される生き方 健全な良心 物事の見方 「リーダーの品格」～イエスキリストの生き方～

I テモテ 3 : 1 ~ 15

「それは、たとえ私がおそくなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。」

私たちが訓練を受けている理由は、問題や迫害の中にあつてこの社会で生きていくために、どのように行動すべきかを私たちが知っておくべきであるということです。ここではどのように行動すればよいか具体的な書かれています。では監督という職についてみていきましょう。

この監督という職は、現在でいう牧師、伝道師という役割です。監督という役割はその組織にいる人達を整えて奉仕の働きをさせてどのように歩み問題を解決していくべきか愛と祈りによって乗り越えていく生き方を自らも一緒に行うことです。

■ 避難されることがない 15 の項目

監督、リーダーに任された場があります。その最小単位の場所は家庭です。職場や、学校という色々な場所で、私たちがそれぞれの役割を担う中でどういう人でなければいけないのか？

『ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。』ここまでは最低限のことです。

『3:6 また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。』

どんなに名誉や地位があつても教会にすればみんな一緒です。神様の前ではただの役割にすぎません。だから、ここで必要なことは、訓練をへて忍耐を通つた人が錬られた品性を生み出して初めてこれができるのです。

『3:7 また、教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔のわなに陥らないためです。』

ここも大きなテーマです。そしりを受けて悪魔のわなに陥らないためです。と書かれています。このそしりとはどういうことでしょうか？牧師になる人、リーダーになる人は、教会の中だけではなく、私たちが遣わされていく場所で役割を担おうとする人に伴うことです。

■ 執事（フォロアー）

教会には、執事、長老という役割があります。この役割とは、リーダーとリーダーを支える役割です。

それはこういった人でなければいけません。

『3:8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず。』

2枚舌とは、上の人にはへつらつて下の人には強くあたる。こういったフォロアーがいると組織も壊れます。そして飲酒についてですが、教会のリーダーになる人は、お酒を飲んではいけません。それは自分の理性を失ってしまうからです。そこには、放蕩があるからです。と聖書にも書いてあるからです。お酒は判断基準を鈍らせお酒を飲むことによって何か起こることを悪だと言っています。欲が罪ではなく、欲がはらむことが罪がと言っています。全ての判断基準は愛です。私たちの行為が人に良い影響をもたらすのか？そうでないのか？を判断することが大切でそれが最初にあつた非難されることがなくということになるのです。リーダーの資質とは出来ないときとあきらめるのではなく、やろうとする姿を見せせる事です。

『3:9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。』

きよい良心とは自分を保たせる最大の力です。リーダーの資質は完全にできることではなく、自分を見るという事です。

■ 自分を見る

人は自分を見ると自分の問題がわかります。聖書は御言葉は鏡だと言っています。聖書の律法は私たちに罪に定めたくてあるのではなく、私たちが罪人であることを教えています。神様の前に出て戻ろうとする。聖書の目的はこれだけです。

本来の姿に向かう事を邪魔する、あなたのウィークポイントは何かでしょうか？自らが正しい判断をしていくために、自分の弱点をしっかりと受け取り、リーダーとしての品格を保てるようにしましょう。

りを受け取り、リーダーとしての品格を保てるようにしましょう。

■ 誰にもできない

『3:15 それは、たとえ私がおそくなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。』

聖書は、「私にはできない」という事を教えるために、十戒を与え、律法を与えています。「私は出来ません。そんな能力はありません。」そこで人は初めて祈り、頼るようになります。そして初めて聞けるようになるのです。これは、神様「が」してくださつてことです。しかし私「も」という心が出てきます。この「も」は自分を神様と対等にさせてしまいます。神様が与えてくれた向上心でさえも、自分の理想の為に使つてしまう私たちです。しかし神様は、我々に似るようなという大切なテーマを人間に任せています。だから私たちができないんだと思うならそれは素晴らしいことです。もし私たちが人生で挫折をしたのなら愛されている事を知ってください。献金と挫折には必ず祝福があります。そして挫折した人は自分の問題に気づくことができます。これが大切です。神様は、リーダーなる人に対して絶えずこの事を教えています。苦難の中を通つた時、神の奥義を学ぶことができます。

■ 一人の人の正しい判断（アーランド・ウィリアムズ祈念稿）

1982年1月13日午後、ワシントンは雪が降りしきつていた。そのような悪天候の中でワシントン・ナショナル空港を飛び立ったフロリダ航空のボーイング機が上昇できず、凍てつくポトマック川に墜落してしまつたのです。そして、酷寒の救助作業の中で人々は見たのである。二度も助かる機会がありながら、それを他人に譲つて自分ついに水の中に消えてしまつた、一人の中年男性の姿でした。

事故による機体の損傷があまりにもひどかつたため、生存者はいないと思われていましたが、割れた氷に6人の生存者がしがみ付いていました。しかし歴史的な寒波に襲われていたワシントン DC では、連邦政府関係者の多くが早退を命じられていたこともあり、交通渋滞が激化していました。その上路面の凍結などの状況も加わり、到着に20分以上要するなど緊急車両の対応が遅れていました。事故から20分後に救助ヘリコプターが駆けつけました。救助ヘリは最初にウィリアムズの乗客に命綱を渡しましたが、彼は、2度にわたつて自分の近くにいた女性に譲りました。救助ヘリが3度目に戻つてきた時には、彼は既に力尽き、水面下に沈み二度と姿を見せることはありませんでした。ここで彼がとつた決断は、自らがしてもらつたことをするという決断でした。結果、多くの人々に救いをもたらしました。アメリカの大統領は、彼の生き様について、彼の生き方について、聖書を基準にするアメリカ合衆国そのものの生き方であると、彼の決断と生き様を賞賛しました。クリスチャンであつた彼の決断と死は、後々多くの人に計り知れない影響を与えました。

■ さいごに…

何かが起こつたときに正しい判断ができるかどうか？神様は私たちに、人生でここぞという時に私たちが正しい判断をすることができるよう「備えよ」と伝えています。今そのように訓練されています。私達はイエスキリストの香りを放つ教会です。失敗しても同じ失敗を繰り返さないように努めることが大切です。人生の大切な場面で無意味なことをしないためです。今あなたの人生の中で、イエスキリストが生きているのでしょうか？それともあなたが生きていますか？あなたは自分の姿を鏡で見えていますか？その鏡とは礼拝であり、毎朝の祈りであり、聖書の御言葉です。「私にはできません」それに気が付き、私たちが神の元に戻ることを。神様はそれを求めておられます。創造主を心に招き入れ、神様が本来私たちに用意して下さっている本来の姿に回復されることを祈つていきましょう。目の前に立つイエスキリストと自分の違いをしっかりと見て、変わろうとすることを共に選び一歩を踏み出しましょう。天にある鏡に向けて手を挙げて祈つていきましょう。そして神様が私の中で生きてくださると祈つていきましょう。

（要約者：岡本 英樹）

（2022年3月27日）